

明治安田生命 子育てに関するアンケート調査を実施

～子どもを「さらに欲しい」と望む人は過去最多！

「幼児教育・保育の無償化」による影響か、子育てにかかる費用は過去最低金額に～

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、0歳から6歳までの子どもがいる既婚男女に「子育てに関するアンケート調査」を実施しましたのでご報告します。

1. 子育ての費用と環境について

(1) 子育てにかかる費用（→詳細は5～6ページ参照）

■子育てにかかる費用は過去最低金額に！「幼児教育・保育の無償化」による「保育園・幼稚園代」の負担軽減が影響か！？

- ・子育てにかかる費用は月額平均「36,247円」と、前年よりも「4,440円」減少し、2018年の当調査開始から過去最低金額に！
- ・昨年10月から実施の「幼児教育・保育の無償化」による影響からか、「幼稚園・保育園代」に負担を感じると答えた人の割合は、前年の66.9%から43.3%へ減少！

明治安田総合研究所フェロー チーフエコノミスト小玉 祐一が「子育てにかかる費用」について分析！

(2) 男性（夫）の育児休暇（→詳細は7ページ参照）

■男性（夫）の育児休暇取得率・取得日数が前年より上昇するも、女性（妻）が理想とする育児休暇とはまだ大きなギャップ

- ・男性（夫）の育児休暇は、取得率・取得日数とも前年から上昇！
- ・平均取得率は26.3%と、前年の16.1%から10p t以上も増加し、平均取得日数も「7日」と前年「4日」から増加！
- ・一方で、女性（妻）が理想とする男性（夫）の育児休暇平均日数は「94日」と、理想と現実の差は約3カ月の大きなギャップが。男性（夫）育児休暇の取得率・取得日数は増加傾向にあるものの、実態としてはまだ「とるだけ育休」の状況？

(3) 子どもをさらに「望む人」「望まない人」（→詳細は8～10ページ参照）

■子どもを「さらに欲しい」と回答した人が、過去最多に！

「幼児教育・保育の無償化」による子育て費用軽減とステイホーム期間中の子育て意識の変化が影響か！？

- ・子どもを「さらに欲しい」と回答した人は30.5%と、前年の21.3%から約10p tも上昇！2018年の調査開始以降、子どもを「さらに欲しい」人の割合が過去最多に！
- ・子どもをさらに望むことに消極的な回答をした人の理由のうち、「教育費がかかるから」の割合は32.5%と、前年から14.5p t減少し、また「仕事との両立が難しいから」の割合は12.8%と前年から3.4p t減少するなど、子どもを「さらに欲しい」という意識の高まりは、「幼児教育・保育の無償化」による教育費の軽減や、男性（夫）の育児休暇取得率の上昇、コロナ禍を契機としたテレワークの浸透による「子育てと仕事の両立のしやすさ」が大きく影響？
- ・なお、子どもを「さらに欲しい」と回答した人のうち、ステイホーム（緊急事態宣言に基づく外出自粛規制）期間中に「子どもとの絆が深まった」など、子育てに好影響があったという回答は約7割！

明治安田総合研究所フェロー チーフエコノミスト小玉 祐一が「子育ての環境変化と少子化」について分析！

(4) 子育て世帯の理想の年収（→詳細は11ページ参照）

■子育て世帯の年収は、理想と現実はまだまだ大きなギャップ！このギャップを埋めるには「働く女性（妻）」が一翼を担う？

- ・子育て世帯の実際の年収は、787万円と前年から32万円アップしているものの、理想の年収も1,096万円と前年の1,032万円から64万円アップ。理想の年収との差は前年から32万円広がり、理想と現実のギャップがさらに拡大する結果に！
- ・女性（妻）が理想とする自身の年収は、304万円と前年から45万円アップしたのに対し、男性（夫）の理想とする自身の年収は792万円と前年から19万円アップにとどまり、より女性（妻）の方が高い収入を望む傾向が！？
- ・女性（妻）が理想とする自身の年収が増加した要因は、働く環境が整備されてきたことや、コロナ禍の先行き不透明な状況のなか、将来の男性（夫）の収入に不安を感じ、女性（妻）自らが「何とかしなければ」という意識のあらわれか？

明治安田総合研究所フェロー チーフエコノミスト小玉 祐一が「子育て世帯の年収」について分析！

2. イクメンについて（詳細は12～14ページ参照）

(1) イクメンの浸透と育児負担割合（→詳細は12ページ参照）

■「イクメン」割合は横ばい！育児に対する妻の期待は年々上昇！

- ・男性（夫）が自身を「イクメン」である、あるいは女性（妻）から見た夫が「イクメン」であると回答した割合は、合計56.0%と2018年調査開始以降、横ばいの状況
- ・女性（妻）が「自分の夫はイクメンである」と回答した「夫の育児負担割合」は、2018年は19.3%、2019年では22.0%であったのに対し、今回は24.8%と、年々男性（夫）のウェイトが上昇しており、妻が夫を「イクメン」と認定するハードルが高くなる結果に！

(2) イクメンだと思う有名人ランキングについて（→詳細は13ページ参照）

■理想のイクメン総合ランキング 第1位は「つるの剛士さん」！男女とも圧倒的な支持が。選出した主な理由は「子育てにちゃんと参加してくれそうだから」

- ・総合ランキング第1位の「つるの剛士さん」は、男女とも圧倒的な支持を得て、部門別ランキングとともに、第1位に！選出した最も多い理由は「子育てにちゃんと参加してくれそうだから」
- ・総合ランキング第2位の「市川海老蔵さん」は、子育てを含めた、何事も一生懸命な姿に多くの支持が！
- ・総合ランキング第3位の「りゅうちえるさん」は、女性（妻）の多くが「妻を労ってくれそうだから」という理由を挙げており、女性ならではの視点でランクイン！

■総合・部門別トップ

総合	つるの剛士さん
バラエティタレント部門	りゅうちえるさん・はなわさん（同率1位）
俳優・歌手部門	つるの剛士さん
文化人部門	市川海老蔵さん
スポーツ部門	佐々木健介さん

3. 子育てを表す漢字について（→詳細は15ページ参照）

■自身の子育てを表す漢字のトップ3は「愛」「絆」「幸」！子育ては「愛」情をもって接することで、家族の「絆」が深まり、「幸」せを実感するも、女性は「忍」んでいる！？

以上

<対象者の属性>

1. 調査対象

0歳から6歳までの子どもがいる既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2020年6月12日（金）～6月15日（月）

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,100人

6. 回答者の内訳

(単位：人)

	夫婦共働き	妻（自身） が専業主婦	計
0歳から6歳までの子どもがいる既婚男性	330	220	550
0歳から6歳までの子どもがいる既婚女性	330	220	550
計	660	440	1,100

【目 次】

1. 子育ての費用と環境について

- (1) 子育てにかかる費用 . . . 5～6ページ
- (2) 男性の育児休暇 . . . 7ページ
- (3) 子どもをさらに「望む人」「望まない人」 . . . 8～10ページ
- (4) 子育て世帯の理想の年収 . . . 11ページ

2. イクメンについて

- (1) イクメンの浸透度と育児負担割合 . . . 12ページ
- (2) イクメンだと思う有名人ランキング . . . 13～14ページ

3. 子育てを表す漢字について . . . 15ページ

1. 子育ての費用と環境について

(1) 子育てにかかる費用

子育てにかかる費用は過去最低金額に！
「幼児教育・保育の無償化」による「保育園・幼稚園代」の負担軽減が影響か！？

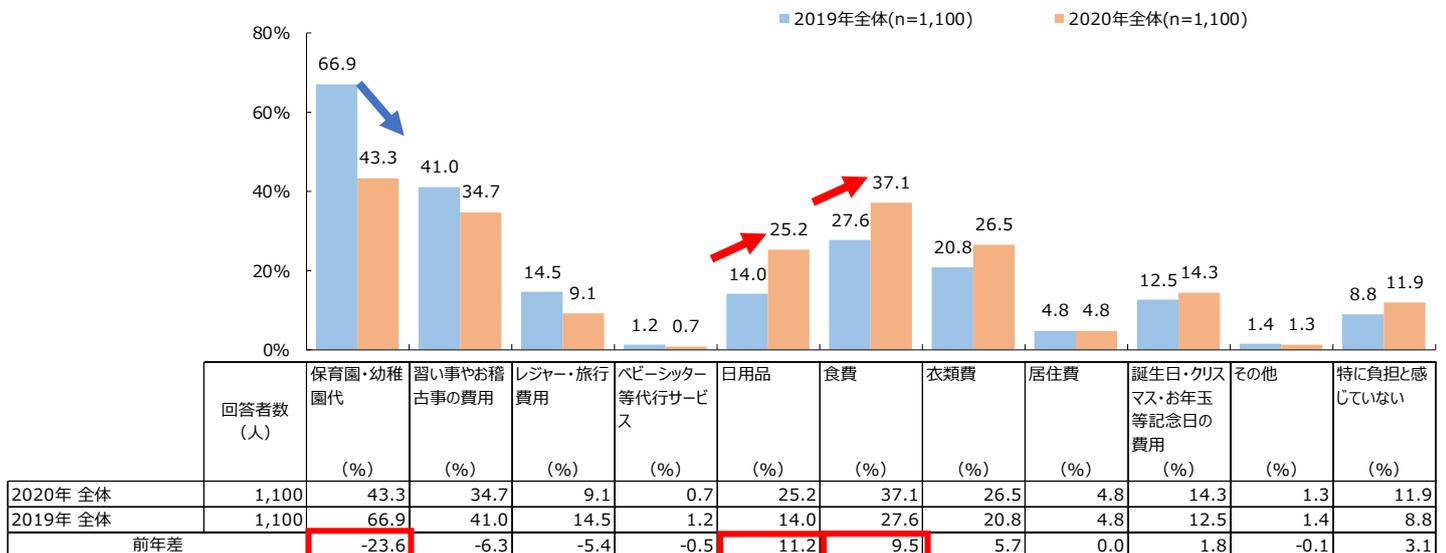
- 現在0歳から6歳までの子どもがいる既婚男女に、子育てにかかる費用（月額）について聞きました。
- 平均金額は「36,247円」で、前年よりも「4,440円」減少し（前年40,687円）、2018年の当調査開始から過去最低金額になりました。
- 子育てにかかる費用で最も負担が大きいと感じている項目は、前年と引き続き、「保育園・幼稚園代」が43.3%でトップとなりましたが、前年の66.9%から、大幅に減少しています（対前年▲23.6pt）。一方、「日用品」は前年14.0%から25.2%（対前年+11.2pt）「食費」は前年27.6%から37.1%（対前年+9.5pt）へと負担と感じる割合が増えています。
- 子育てにかかる費用は、新型コロナウイルス感染症の影響により「日用品」・「食品」の負担増加がみられたものの、昨年10月に施行された「幼児教育・保育の無償化」の影響により、負担割合が一番高い「保育園・幼稚園代」の負担が軽減したことで過去最低金額になったといえそうです。

■子育てにかかる費用（月額）

前年から4,440円減少

	回答者数 (人)	0円 (%)	～5千円 (%)	～1万円 (%)	～2万円 (%)	～3万円 (%)	～5万円 (%)	～10万円 (%)	10万円超 (%)	平均(円) ※0円を含まない
2020年 全体	1,100	2.5	8.1	14.1	19.3	17.2	21.4	15.9	1.6	36,247
2019年 全体	1,100	0.4	14.3	5.7	11.5	17.2	30.9	17.8	2.3	40,687

■子育てにおいて負担が大きいと感じている費用（複数回答）



～フェロー チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



保育園・幼稚園代の負担大との回答が20%ポイント以上減少し、子育てにかかる費用が過去最低額になるという、喜ばしい結果が示されました。若い夫婦から、子供を多く持てない理由としてもっとも多く挙がるのが費用の問題です。この点、政府の「幼児教育・保育の無償化」の効果が明確に現れているといえます。

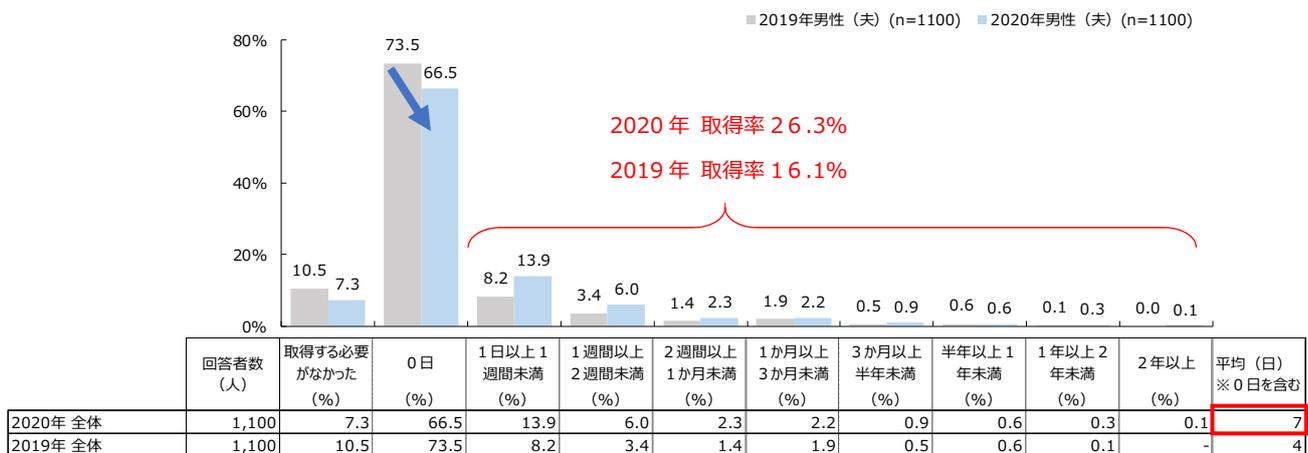
ただ、同時に食費や日用品の負担増が示されているところを見ると、コロナ下で、家庭内保育が増えていることも一因の可能性があり、手放しでは喜べないかもしれません。また、無償化により、預かり保育や延長保育等の追加的なサービスの利用を検討する家庭が増える可能性もありますが、この点、3密回避が難しい保育現場の負担への配慮も求められるところです。

(2) 男性（夫）の育児休暇

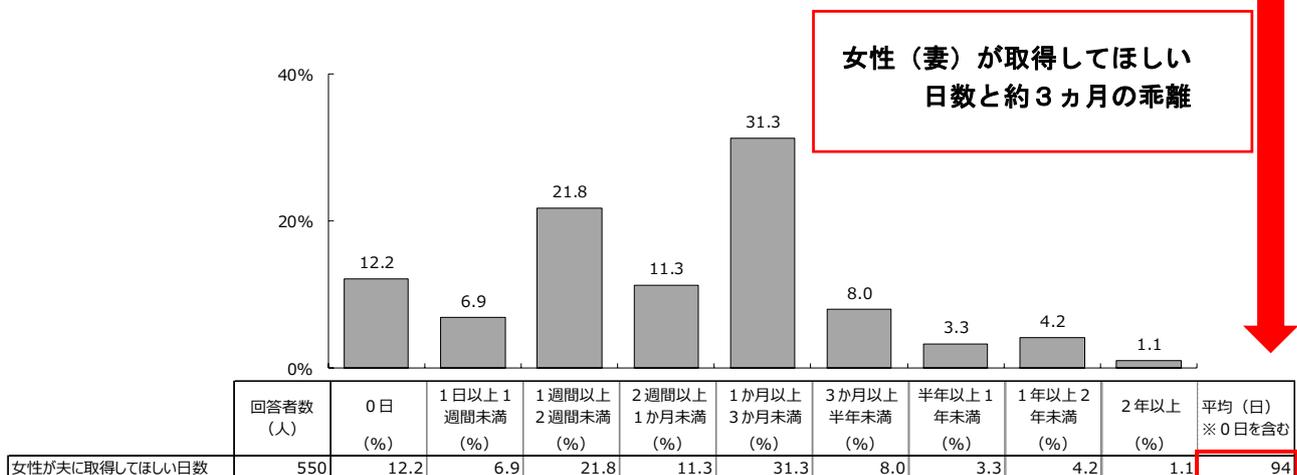
**男性（夫）の育児休暇取得率・取得日数は前年より上昇するも、
女性（妻）が理想とする育児休暇日数と大きなギャップ**

- 男性（夫）の育児休暇の取得状況について聞いてみました。
- 育児休暇の取得日数が「0日」と回答した人は前年73.5%から今年66.5%と減少しています。また1日以上取得した人は、前年16.1%から今年26.3%と10pt以上増加する結果となり、男性（夫）の育児休取得率が増加している傾向が見られました。
- なお、取得日数の平均は「7日」と、前年の「4日」から増加している結果となりました。
- 次に、女性（妻）が男性（夫）に取得してほしい育児休暇日数を聞くと、「94日」という結果で、実際に男性（夫）が取得した日数と約3カ月の乖離があります。
- 男性（夫）の育児休取得率や育児休取得平均日数は増加していますが、女性（妻）が取得してほしい日数とは大きな差が伺える結果となりました。男性（夫）は短期間の「とるだけ育休」ではなく、女性（妻）の理想とする育児休暇日数を取得し、より育児に携わる必要があるのかもしれない。

■ 育児休暇取得日数（男性回答⇒自身の取得日数 女性回答⇒夫が取得した日数）



■ 理想の育児休暇日数（女性回答のみ 夫に取得してほしい日数）



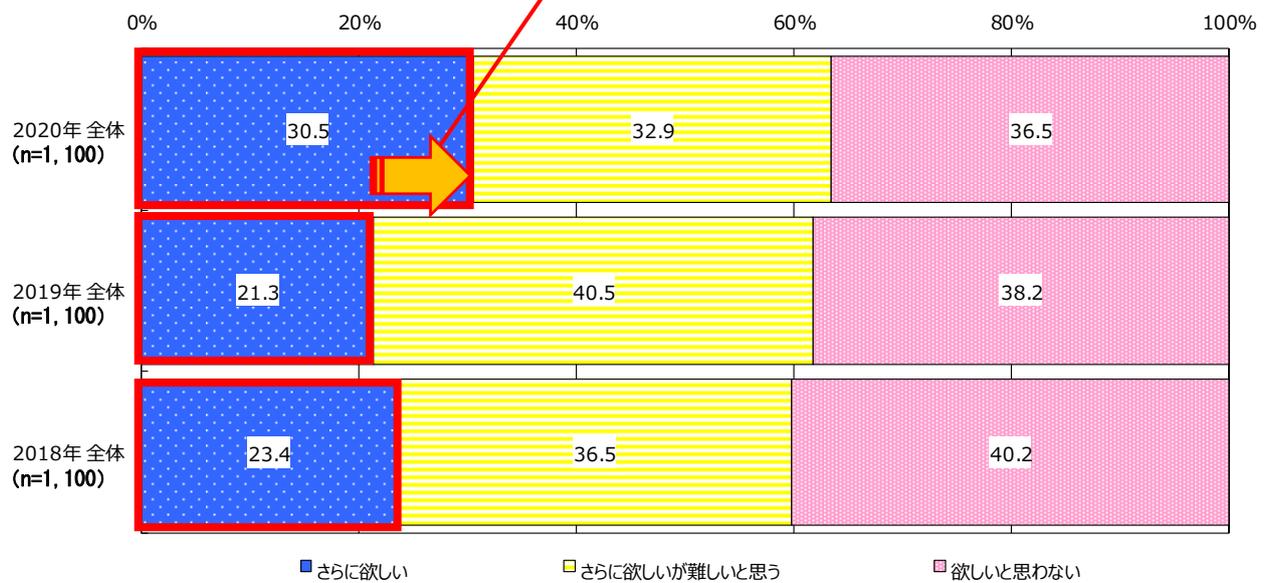
(3) 子どもをさらに「望む人」「望まない人」

子どもを「さらに欲しい」と回答した人が、過去最多に！
 「幼児教育・保育の無償化」による子育て費用負担軽減と、
 ステイホーム期間中の子育て意識の変化が影響か！？

- 今後、子どもを「さらに欲しい」か聞いてみました。
- 前年と比べると、全体で、子どもを「さらに欲しい」という積極的な意見は30.5%（前年21.3%）と、約10pt増加しており、子どもをさらに望む人は当調査を開始した2018年以来、過去最多となりました。
- また、男女別でみると、「さらに欲しい」と回答した男性（夫）は21.6%と前年から2.7pt増加したのに対し、女性（妻）は39.5%と前年から15.9ptアップしており、男性（夫）よりも女性（妻）の方が子どもをさらに望む人が増えていることがわかりました。

■子どもを「さらに欲しい」かどうか

子どもを「さらに欲しい」と回答した人は、
前年から約10pt増加

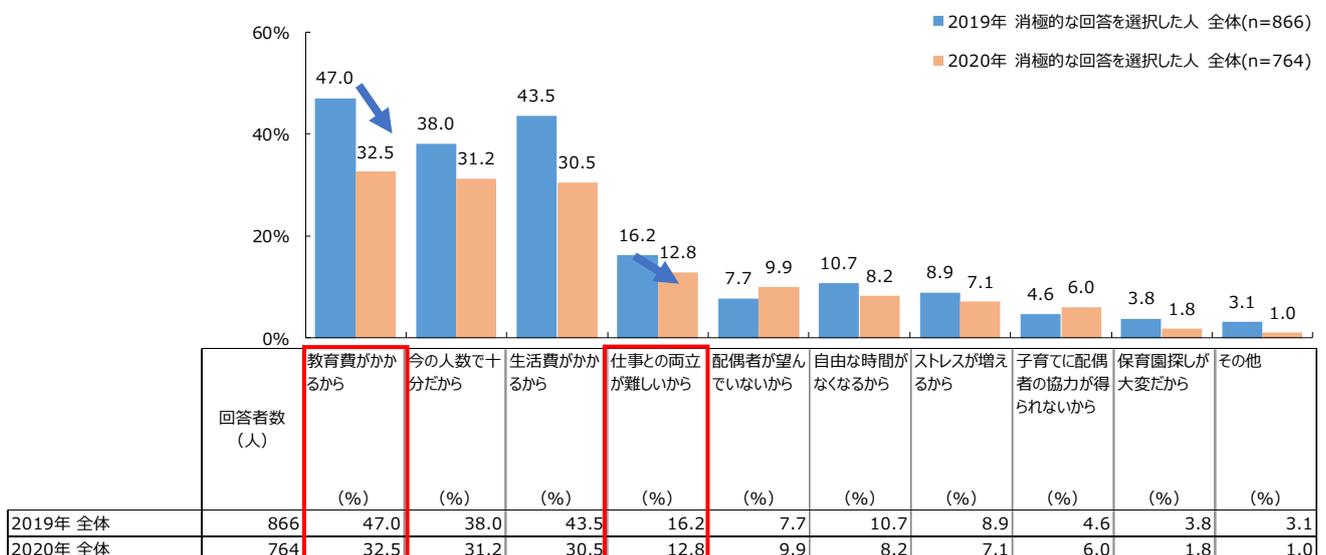


■子どもを「さらに欲しい」と回答した人（男女別 前年比較）

	2019年	2020年	前年差
男性	18.9%	21.6%	+ 2.7%
女性	23.6%	39.5%	+ 15.9%

- 次に、子どもを「さらに欲しいが難しいと思う」「欲しいと思わない」と消極的な回答をした人にこの理由を聞いたところ、前年最も回答数が多かった「教育費がかかるから」の回答が、32.5%（対前年▲14.5pt）と、大幅に減少しています。
- 子育て世帯において、子どもをさらに望めない一番の要因であった教育費の負担が、「幼児教育・保育の無償化」により解消されたことから、子どもを「さらに欲しい」と望む人が増えたのかもしれませんが。
- また、「仕事との両立が難しいから」という回答が12.8%（対前年▲3.4pt）と前年から減少しており、男性（夫）の育児休取得推進・テレワークの活用等により、育児と仕事の両立を図りやすくなったことで、女性（妻）が子どもを「さらに欲しい」と望むようになったのかもしれませんが。

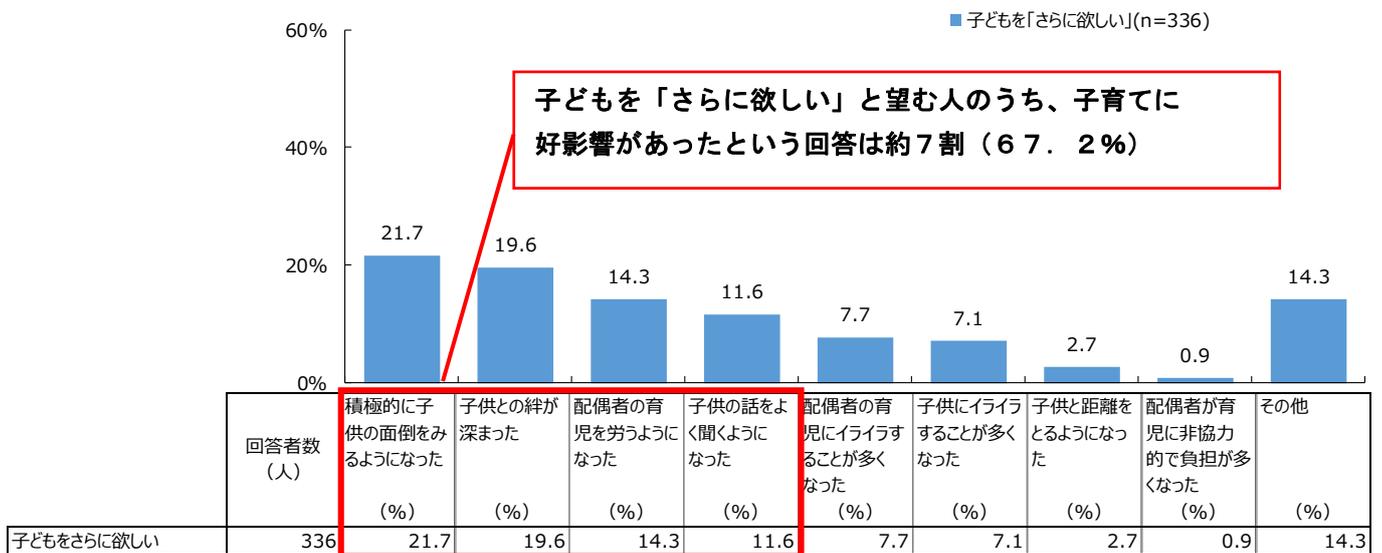
■子どもを「さらに欲しいが難しいと思う」「欲しいと思わない」理由（複数回答）
 （子どもをさらに望むことに消極的となる理由を前年比較）



○子どもを「さらに欲しい」と回答した人に、ステイホーム（緊急事態宣言に基づく外出自粛規制）期間を終えた自身の子育てに対する意識の変化について聞いたところ、「積極的に子どもの面倒をみるようになった」（21.7%）や「子どもとの絆が深まった」（19.6%）などの回答が多く、子育てに対して約7割（67.2%）の人に好影響があったという結果となりました。

○ステイホーム期間を終え、子育て意識に良い変化があった人は、子どもとの絆を深め、子どもを「さらに欲しい」という気持ちが芽生えたのかもしれない。

■ステイホーム期間を終えた自身の子育てに対する意識の変化について
（子どもを「さらに欲しい」と回答した人のみ）



～フェロー チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



子どもを「さらに欲しい」という積極的な意見が前年から約10ptも増加するという結果になりました。女性のほうが増加したのは、テレワーク普及の効果でしょう。逆に、消極的な人の理由を見ると、教育費との回答が大幅に減少しており、「幼児教育・保育の無償化」の効果が確認できます。今後、これが実際に出生率の上昇に繋がるかどうかポイントですが、政府の少子化対策が間違っていなかった可能性を示しています。

ステイホーム期間に子育てに好影響があったとする回答は約7割に上っており、この半年で、人々の働き方とともに、子育てへの意識も良い方向に変わりつつあるようです。こうした機運を逃さず、うまく生かしていく政策が必要になると思います。

(4) 子育て世帯の理想の年収

**子育て世帯の年収は、理想と現実にまだまだ大きなギャップ！
このギャップを埋めるには「働く女性（妻）」が一翼を担う？**

- 子育て世帯の年収について聞きました。
- 現実の世帯年収（男性（夫）＋女性（妻））について聞くと、前年は755万円（男性（夫）：626万円＋女性（妻）：129万円）であったのに対し、今年は787万円（男性（夫）：634万円＋女性（妻）：153万円）と、前年と比較して32万円アップしています。
- 次に、理想の年収について聞くと、理想の世帯年収は1,096万円（男性（夫）：792万円＋女性（妻）：304万円）となり、前年と比較して64万円アップしました。
- 現実の年収は前年よりもアップしているものの、理想の年収の増加幅が大きいため、理想と現実の差が前年よりも32万円広がる結果となり、まだまだ大きなギャップがあります。
- 特に、女性（妻）が理想とする自身の年収は、304万円と前年から45万円アップしており、男性（夫）の理想とする自身の年収の増加幅よりも大きく、子育てをするにあたって、より高い収入を望む傾向が強いのかもかもしれません。
- 女性（妻）の自身の理想年収額の上昇は、働く環境が整備されてきたことや、コロナ禍の先行き不透明な状況のなか、男性（夫）の将来の収入に不安を感じ、自らが「何とかしなければ」という意識のあらわれなのかもしれません。

■理想と現実の年収

	2019年			2020年		
	世帯	男性	女性	世帯	男性	女性
自分の理想の年収 (A)	1032万円	773万円	259万円	1096万円	792万円	304万円
自分の現実の年収 (B)	755万円	626万円	129万円	787万円	634万円	153万円
理想と現実年収の差 (A) - (B)	277万円	147万円	130万円	309万円	158万円	151万円

前年から32万円アップ

～フェロー チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



女性の理想の年収額が上昇しているのが、夫の収入に不安を感じているせいだとすれば、世の男性は肩身が狭いかもしれませんが、これは社会のあり方を変えるチャンスです。子育て期の女性の就業率が下がる「M字カーブ」はすでに解消しつつありますが、処遇という点ではまだ十分とは言えません。菅総理は企業に対し、女性の登用を促す方針を示しています。これが、女性の働く意欲向上とあいまって、さらなる女性の活躍に繋がることを期待したいです。

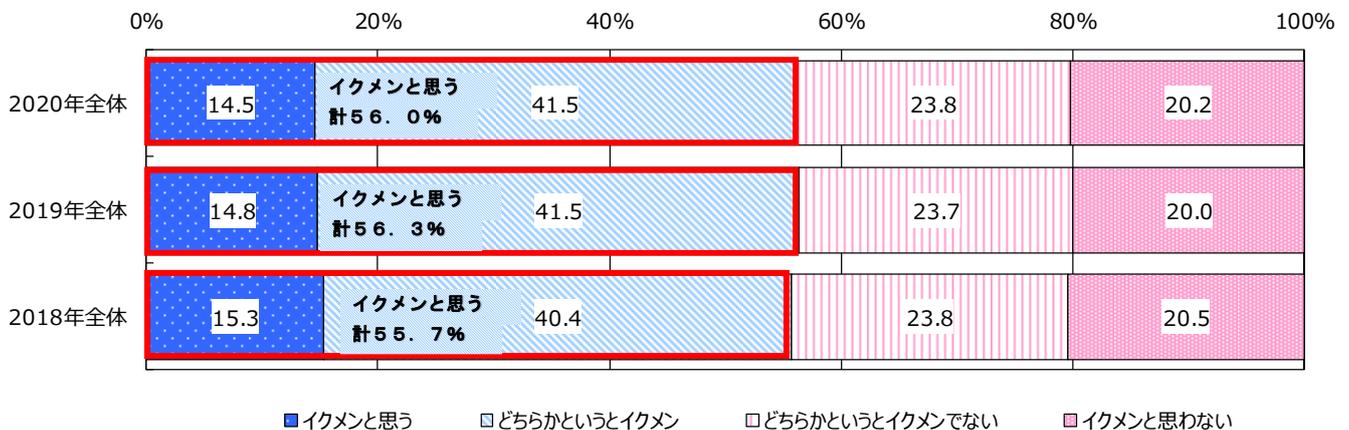
2. イクメンについて

(1) イクメンの浸透度と育児負担割合

「イクメン」割合は横ばい！育児に対する妻の期待は年々上昇！

- 0～6歳の子どもがいる男女に、「イクメンかどうか」（男性（夫）の自己評価、女性（妻）の夫への評価）を聞いてみました。
- 全体で「イクメンと思う」と回答した人の平均は14.5%、「どちらかというといくメンと思う」と回答した人の平均は41.5%で、「イクメンと思う計（イクメンと思う+どちらかというといくメンと思う）」は56.0%の結果となり、一昨年の55.7%、昨年の56.3%から大きな変化はありませんでした。
- イクメンの評価基準として、女性（妻）は男性（夫）がどのくらい育児を負担したらイクメンと認定するのかを、男性（夫）の平均育児負担割合からみると、男性（夫）が平均で育児の24.8%を負担すると、女性（妻）は男性（夫）をイクメンと認定する傾向がみられました。この評価基準を経年で比較すると、イクメンと認定される男性（夫）の平均育児負担割合（一昨年：19.3%、昨年：22.0%）は年々上昇しており、男性（夫）が育児をすることへの女性（妻）の期待が増していることがわかります。
- 男性（夫）は今までどおり育児をしても女性（妻）からイクメンと思われにくくなっており、女性（妻）が夫を「イクメン」と認定するハードルは、年々高くなっているようです。

■イクメン度



■女性（妻）が自身の夫をイクメンと回答した、男性（夫）の育児負担割合（平均）

	2018年	2019年	2020年
男性（夫）の育児負担割合（平均）	19.3%	22.0%	24.8%

(2) イクメンだと思う有名人ランキング

理想のイクメン総合ランキング第1位は「つるの剛士さん」！ 男女とも圧倒的な支持が選出した主な理由は「子育てにちゃんと参加してくれそうだから」

- 「理想のイクメン」について、イクメンだと思う有名人を聞きました。
- 総合ランキング第1位は「つるの剛士さん」、第2位は「市川海老蔵さん」、第3位は「りゅうちえるさん」となりました。
- 総合ランキング第1位の「つるの剛士さん」は男女とも圧倒的な支持を集め、部門別の俳優・歌手部門でも第1位の結果となりました。理由は「子育てにちゃんと参加してくれそうだから」が63.5%でトップ。次いで、「妻を労ってほしいそうだから」が28.6%という結果でした。
- 総合ランキング第2位の「市川海老蔵さん」は文化人部門では、堂々の第1位となりました。「市川海老蔵さん」をイクメンに選んだ理由は、「何事にも一生懸命取り組んでほしいそうだから」が43.2%で最も多く、子育てをしている姿を、一生懸命だと捉えた多くの男女から支持を得ています。
- 第3位の「りゅうちえるさん」は、女性回答のみの総合ランキングでは第2位の結果となりました。「りゅうちえるさん」を選んだ最も多い理由は、「子育てにちゃんと参加してくれそうだから」(69.6%)で、次に「妻を労ってくれそうだから」(60.7%)が多くみられ、女性の男性に求める育児が、「子育てにちゃんと参加すること」「妻を労うこと」を重視していることが伺えます。
- また、総合ランキングの女性回答第8位にランクインした「カジサックさん」(キングコング梶原雄太さん)は、YouTubeで自身の子育てを日々紹介しており、今後新しい情報発信スタイルのイクメンが増えることを予感させます。選出した理由は「子育てにちゃんと参加してくれそうだから」が半数以上を占めており、「カジサックさん」の動画を視聴した多くの方が、「子育てにちゃんと参加している」と捉えたようです。

■2020年「イクメン」ランキング【総合】(敬称略)

全体 (n=1100)		
1位	つるの剛士	192人
2位	市川海老蔵 (歌舞伎役者)	88人
3位	りゅうちえる	56人
4位	佐々木健介 (プロレス)	52人
5位	杉浦太陽	51人
6位	石田明 (NON STYLE)	40人
7位	大久保嘉人 (サッカー)	34人
8位	山口智充	30人
9位	はなわ	29人
10位	藤井隆	24人

男性 (n=550)		
1位	つるの剛士	93人
2位	市川海老蔵 (歌舞伎役者)	38人
3位	佐々木健介 (プロレス)	25人
4位	大久保嘉人 (サッカー)	23人
5位	山口智充	20人
6位	はなわ	19人
7位	伊達みきお (サンドウィッチマン)	15人
7位	藤井隆	15人
9位	リーチマイケル (ラグビー)	14人
10位	杉浦太陽	13人
10位	橋下徹 (弁護士・政治評論家)	13人

女性 (n=550)		
1位	つるの剛士	99人
2位	りゅうちえる	53人
3位	市川海老蔵 (歌舞伎役者)	50人
4位	杉浦太陽	38人
5位	石田明 (NON STYLE)	31人
6位	佐々木健介 (プロレス)	27人
7位	水嶋ヒロ	15人
8位	長友佑都 (サッカー)	12人
8位	カジサック (ユーチューバー)	12人
10位	大久保嘉人 (サッカー)	11人

■主な選出理由 (複数回答)

	回答者数 (人)	子育てにちゃんと 参加してくれそう だから (%)	何事にも一生懸命 取り組んでくれ そうだから (%)	妻を労ってくれ そうだから (%)	自分のことより も、妻や子どもの ことを優先してく れそうだから (%)	やさしいイメージ があるから (%)	子どもの気持ち がわかりそうだ から (%)	頼りになるイメ ジがあるから (%)	社会経験が豊 富そうだから (%)	子育てについて 的確なアドバイ スしてくれそう だから (%)
つるの剛士	192	63.5	20.3	28.6	22.9	28.1	21.4	13.0	4.7	1.0
市川海老蔵 (歌舞伎役者)	88	42.0	43.2	4.5	21.6	12.5	27.3	40.9	11.4	4.5
りゅうちえる	56	69.6	30.4	60.7	41.1	32.1	12.5	1.8	-	5.4
カジサック (ユーチューバー)	22	54.5	36.4	45.5	36.4	13.6	18.2	9.1	4.5	-

■2020年「イクメン」ランキング【部門別】(敬称略)

【バラエティタレント部門】

全体 (n=1100)		
1位	はなわ	128人
1位	りゅうちえる	128人
3位	石田明 (NON STYLE)	105人
4位	山口智充	91人
5位	庄司智春 (品川庄司)	64人
6位	ヒロミ	61人
7位	土田晃之	57人
8位	伊達みきお (サンドウィッチマン)	55人
9位	藤井隆	52人
10位	田中裕二 (爆笑問題)	51人

【文化人部門】

全体 (n=1100)		
1位	市川海老蔵 (歌舞伎役者)	293人
2位	鈴木おさむ (脚本家)	99人
3位	橋下徹 (弁護士・政治評論家)	96人
4位	カジサック (ユーチューバー)	95人
5位	松岡修造 (解説者)	79人
6位	榎太一 (アナウンサー)	63人
7位	辻仁成 (作家)	52人
8位	SEIKIN (ユーチューバー)	19人
9位	林修 (予備校講師)	18人
10位	高橋由伸 (解説者)	17人

【俳優・歌手部門】

全体 (n=1100)		
1位	つるの剛士	441人
2位	杉浦太陽	137人
3位	中尾明慶	70人
4位	水嶋ヒロ	62人
5位	谷原章介	46人
6位	ダイヤモンド☆ユカイ	35人
7位	高橋克典	27人
7位	江口洋介	27人
9位	賀来賢人	24人
10位	田中圭	20人

【スポーツ選出部門】

全体 (n=1100)		
1位	佐々木健介 (プロレス)	214人
2位	大久保嘉人 (サッカー)	139人
3位	長友佑都 (サッカー)	135人
4位	田中将大 (野球)	109人
5位	魔裊斗 (キックボクシング)	53人
6位	リーチマイケル (ラグビー)	48人
7位	田中史朗 (ラグビー)	36人
8位	長谷部誠 (サッカー)	22人
9位	中村俊輔 (サッカー)	19人
10位	内村航平 (体操)	16人

3. 子育てを表す漢字について

自身の子育てを表す漢字のトップ3は「愛」「絆」「幸」！ 子育ては「愛」情をもって接することで、家族の「絆」が深まり、「幸」せを実感するも、
女性は「忍」んでいる！？

○子育てを表す漢字について聞いてみたところ、トップは「愛」の漢字が選ばれる結果となりました。2位には「絆」、3位には「幸」の漢字が選ばれ、子育ては辛かったり我慢が求められたりと、さまざまな苦労があるものの、「愛」情をもって接することで子どもとの「絆」が深まり、「幸」せを実感する人が多いようです。

○なお、女性の回答には「忍」の回答も一定数見られ、女性は男性と比べ、子育てに「忍」耐が必要であると感じている人が多いのかもしれない。

■自身の子育てを表す漢字（トップ10を掲載）

